



のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』

【ぬくもりの交流絵手紙講習を振り返って】

四季彩の絵手紙教室 志村 ひかり

学生時代に帰りどうして描いてよいか分らない人も、八十の手習いという人も、皆和やかな中で授業が始まり、六十年ぶりに絵筆をもつ手が震え、何もかも忘れて一心に筆を走らせる。そして、緊張しながら色彩を置き、どこにも無い小さな小さな自分画を仕上げる。絵を描くことよって四季を感じ、野山の野草にも今迄にない優しさという世界が広がり、皆少女のように瞳を輝かせたひと時でした。八十歳になっても出来る素晴らしい青春です。これが生涯学習ではないでしょうか！

私の絵手紙グループでは心を込めて描き上げた作品、色紙七枚と絵手紙五十枚程を「よこぶき荘」へ、プレゼントしながら慰問に行きました。また、十月には都留市内の「一人暮らしの高齢者見守り声かけ活動」の一環に参加してボランティアで社会福祉協議会へ百枚寄付させて頂きました。絵手紙により、ふれ合うぬくもりの交流、小さな輪が大きな輪に広がり年老いてなお輝く人生になるのではないのでしょうか。

絵手紙の目的は、心を込めて描くことで「へたがいい」「へたでいい」のです。現在、電話、FAX、パソコン通信の時代何かと気忙しい中、時間の流れが速い時代だからこそ意識して心にゆとりを持ち、人の手で描かれた手作りのぬくもり、色彩の暖かさ、ポストにされる人、受ける人の心ときめく楽しい交流、決して印刷字などに無い素晴らしいコミュニケーションだと思えます。最初のころ、とまどっていた人達もどんどん上達して色紙や和紙にまで描けるようになり、お店に飾ったり、家で個展を開いて楽しんでいきます。

また、女性センター、YLO会館、銀行などで、グループ展をしたところ「私も描いてみたい」「すてきね」「あったかいね」などお誉めの言葉を頂きました。四季の花、四季の果物、そして景色を追いかけると一年がアツという間に過ぎしてしまいます。これからの人生を絵手紙を通して、人と人の優しさ、そして、ぬくもりや暖かさで過ごせたらどんなにすてきなことはないでしょうか。さあ、貴方も絵手紙を始めてみませんか！



【生活の中に自然を】

藤工芸 奥脇 弥生

長引く不況で、大手の会社の倒産・合併が続く中、今改めて心のゆとりが問い直されています。

物やお金に頼る時代が終わり、心の問題を考える時代になったのでしょうか。そんな時代を迎え、生涯学習という言葉が聞かれたことのある方もたくさんいると思います。幸いに都留には数多くの生涯学習講座があります。

私が実践している生涯学習は、「藤やつる」を使い生活に密着しているものを作ることです。

特につるなどは都留の数多くの自然から利用したものもあり、自然を楽しむという癒しの効果もあるのではと思っております。自然に触れるというのは、ゆとりと大きく関係するよう思っています。最近、登山者も年齢に関係なく増えていきますし、ガーデニングブームもその一つといえます。

私もいろいろな学級の講師として、「つる」を使つての、かご作りなどの講座を担当してきましたが、参加していただいた人達に自然への関心や、物を作ることへの楽しさが少しでも伝わるととてもうれしく思います。生活の中に自然を取り入れて過ごすことは、とてもすばらしいことだと思えます。

何かに没頭して物を作りあげるといことは、私も大好きです。そして、そこから生まれる人とのふれあいを楽しむとともに、大事にしています。

これからの自分の時間をどのように過ごすかは、個人の大きな課題でしょう。余暇をいかに利用し、活用するか・・・。学校も週五日制になる時代です。そんな中、もう一度生涯学習というものを見直してみたいかがでしょうか。